うみなり

令和３年度 六ヶ所村立第一中学校 学校だより
令和４年１月２０日（木）発行　第２２号　文責　藤川　俊彦

心を積極的に　良い言葉を使う　良き行動をする!!
～今日から3学期　大谷翔平選手の愛読書から～

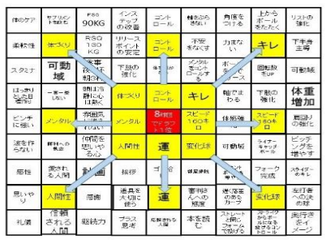
始業式

令和４年１月１７日（月）３学期始業式が行われました。新年の学校スタートに際し、以下のようなお話をしました。

「令和４年がスタートしました。私たち日本人は、昔から節目をとても大切にしてきました。自分にとって良い行動目標を立てる際、この節目はとても大切になってきます。新しい年が明け、学校が始まった今日がチャンスの日です。ぜひ良い行動目標を立てて取り組んでみてください。（なお、節目チャンスの日は年度が変わる４月１日や自分の誕生日などありますよ！）

３学期

さて、今日は『二刀流』について話したいと思います。私にとって二刀流と言えば宮本武蔵なのですが、みなさんがイメージするのは『大谷翔平』選手（27歳）なのではないでしょうか。（全校生徒が大谷選手を知っていると手を上げました）昨年世界で一番有名な日本人と言っても過言ではない大谷選手ですが、彼の愛読書が書かれた新聞記事を読んだところ、その一冊に中村天風（なかむらてんぷう）氏の著書『運命を拓（ひら）く』がありビックリしました。私自身３０代にこの本と出合ったのですが、彼の場合は花巻東高校時代に読んでいたことにとても驚きました。機会があれば皆さんにも読んでもらいたい本なのですが、本の内容を一言で言えば『心を積極的にする』という事です。『常に積極的な良い言葉を発信することで、積極的な行動になり、積極的な生き方（運命）になる。』とその本には書いてあります。



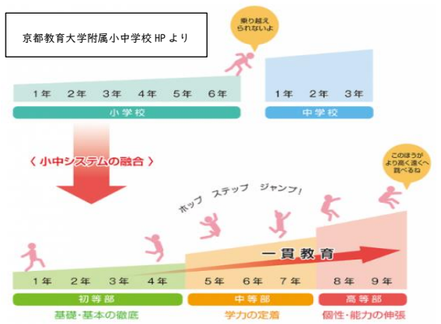
大谷選手は高校時代、自己目標シートであるマンダラチャートに『ドラフト１位、８球団から指名』と目標を掲げ、その中の『メンタル・人間性・運』にこの本での考えを取り入れています。まさに大谷選手は心や行動を積極的にすることで、メジャーリーグで二刀流を行い、ア・リーグの MVP になったのです。

以前もお話しましたが、３学期は別名０学期です。１年間のまとめをすると共に、進学や進級に向けた準備期間になります。次年度に向けて『心を積極的にする』そのために、積極的で良い言葉を使ってみましょう。でも、たまに意識せずに消極的・否定的・不平不満などの悪い言葉が出てしまうことってありますよね。そんな時は思った（話した）後に『～と昔はよくぼやいたものだったけどね！』とかわすそうです。『つねに積極的な言葉を使う習慣をつくりなさい。習い性になれば、もう大した努力をする必要はない』と中村氏も話しています。さぁ皆さん節目チャンスに心や言葉・行動を積極的にしましょう！」

京都の中学生とエネルギーについて交流しました！

令和３年１２月２３日（木）の午後、京都教育大学附属京都小中学校（以下：京都小中学校）７年生（本校なら中学校１年生）の生徒１４名と本校の１０名の生徒が、エネルギーに関する交流会を実施しました。

京都小中学校は小学校と中学校の９年一貫校で、１年～４年が初等部、５年～７年が中等部、８・９年が高等部となり（右図参照）中等部から教科担任制となります。今回は、今年度総合的な学習の時間で取り組んでいる【福島と共に学ぶ「未来につながる持続可能なエネルギーを求めて」】の一環として、「日本のエネルギーを支える六ヶ所村で学ぼう！」をテーマに来村しました。



交流会では京都小中学校の皆さんが自己紹介を兼ねて、六ケ所村での様々なエネルギー施設を見学した感想を発表してくれました。

・六ヶ所村では自然エネルギー発電が発達していることを知れた。
・太陽光パネル、風力発電の風車を初めて見た。六ヶ所は（エネルギーという観点では）京都よりも発達している。
・エネルギーが身近に感じられる地域。京都よりも寒く、雪が降っていることが凄いと思った。
・放射能が人の役に立っていることを知れた。
・東北が初めてだったが、雪・風車と初めてのことが沢山でびっくりした。視察等で様々学べたが、もっと色々なことを知りたい。
・東北自体に初めて来たが、風車・太陽光パネルと先進的だと知れた。自分の考えだけでなく、他の人の意見も聞いて理解したい。
・日常に発電が溢れていて驚いた。住民（中学生含む）が原子力についてどう考えているか聞きたい。
・京都でも勉強はしてきたが、六ヶ所で更に色々なことを学べた。
・エネルギーが身近にあり、意見交流を基に今後の未来についてしっかり考えたい。
・雪と自然に恵まれていると思った。
・風力発電、太陽光発電が身近にあることをここにいる人はどう感じているのかを知りたい。

その後、京都小中学校の活動紹介を経て、六ヶ所村で働く人たちや本校生徒へ質問など活発に行いました。詳細は学校 HP「子どもたちの様子（保護者用）」に掲載しておりますのでご覧ください。

京都小中学校では、今回の交流会で得た知見や今まで学習したことをまとめ、２月３日（木）に行われる公開研究発表で発表（プレゼン）するそうです。私もオンラインで参加したいと思っています。

つ　ぶ　や　き

京都小中学校との交流会で京都の生徒さん方が話した『六ヶ所村に来た感想』を聞いて、4 年前のある言葉を思い出しました。

『この町、何もないよね。小さい頃はここにいたら夢は叶（かな）わないんじゃないかと思っていました。でも今は、この町じゃなきゃ夢は叶わなかったと思っています』2018年2月27日、平昌（ぴょんちゃん）オリンピック女子カーリングで日本初の銅メダルに輝き、故郷（北海道北見市常呂町）に凱旋した吉田知那美選手の言葉です。

地元に住んでいる人は意外に、その場所の良さが分かっていないことが多いものです。世界規模で見た日本もそうで、私たちは外国の優れた面ばかりに目が行きがちですが、日本のように四季折々の顔を見せ、治安に優れ、清潔で、食べ物が安全でおいしい国はそうなかなかありません。落とした財布がそのままで警察に届く国は世界でも稀（まれ）だそうです。

今回の交流会で六ヶ所村の良いところを再確認させてくれた京都小中学校の生徒さんに感謝すると共に、みなさんにもぜひ自分の住んでいる日本や青森県、六ヶ所村などの良さを再発見してほしいと思っています。